

令和7年度 佐賀大学教育学部 附属小中学校教育研究発表会

総合的な
学習の時間

当日資料



鯨っ子学習

令和7年7月24日(木)

公開授業Ⅲ: 10:20~11:05

会場: メディアセンター

分科会③: 11:20~12:30

会場: 多目的室1・2



阿嘉 明彦

sy5742@cc.saga-u.ac.jp

1 「鯨っ子学習」のすゝめ～

本校では、総合的な学習の時間のうち 15 時間を「鯨っ子学習」として設定している。「鯨っ子学習」とは、子どもたちが自身の興味・関心に関わる事柄について自分で見つけた課題を設定し、仮説を立て、調査を通して得られた情報を整理したり分析したりして、まとめて発表する学習を行っている。そして、論理的に結論を導く考え方を身に付け、自己の生き方を考えることを目指す。その際、上記の資質・能力を育成するために、次のような取り組みを全校で共通して行うこととしている。

- ・子どもたちが「㊦課題の設定」「㊧情報の収集」「㊨整理・分析」「㊩まとめ・表現」という探究的な学びをできるように「鯨っ子学習のすゝめ」（教師用：図 1、児童用：図 2）を作成する。
- ・探究的な学びに耐えうる課題を子どもたちが設定しやすくするように、各教科の学びを通して興味を引き出す。
- ・関心を抱いたものを記録しておく「課題ストック」を日頃から行えるように専用のノートを用意する。
- ・教師が課題や仮説の立て方、整理・分析の仕方などを例示する。

総合的な学習の時間の 70 時間のうち、「鯨っ子学習」を除いた 55 時間については、学年や学級で内容が異なる。各学年でのプロセスにおいても、「㊦課題の設定」「㊧情報の収集」「㊨整理・分析」「㊩まとめ・表現」という探究的な学びを取り入れて行っている。また、㊦㊧㊨については、タブレット端末を活用して情報活用能力も身に付けるような学習を行っている。

児童が、「課題の設定」から「まとめ・表現」に至るまでの時数配分や活動例を示すことで、児童が見通しをもって学べるようにするために「鯨っ子学習」のすゝめ（教師用：図 1、児童用：図 2）を作成して提示する。

2 「鯨っ子学習」を含む

総合的な学習の時間の年間計画

学年毎の共通テーマと、本校独自の教科担任制を生かしたテーマ、児童の興味・関心から見いだした課題を解決する「鯨っ子学習」を設定し、進めていく（次頁表 1）。鯨っ子学習については、上学年が下学年に学習過程を通して作られた成果物やそれについての発表を聞くことができ、系統性も意識することができるようにする。

3 「資質・能力デザイン」

「資質・能力デザイン」（次々頁表 2）を開発するにあたっては、「課題探究メソッド」（岡本 2017）を援用し、各教科等横断的な見方・考え方として二学年ごとに定める。ただし、小学校第 1・2 学年においては、生活科における資質・能力を総合的な学習の時間とのつながりを考えて設定する。

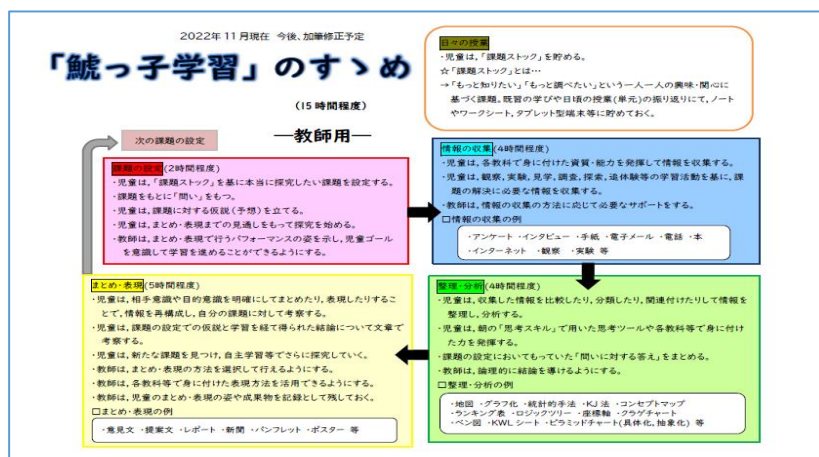


図 1 「鯨っ子学習」のすゝめ（教師用）

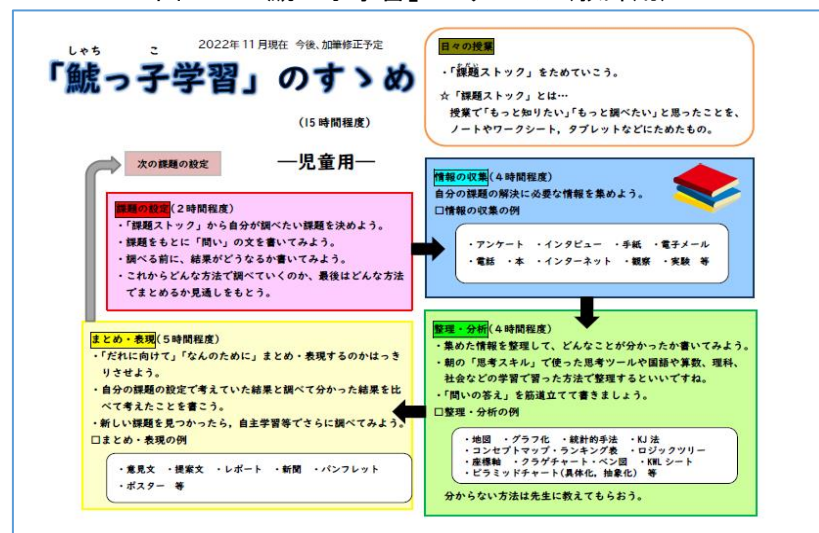


図 2 「鯨っ子学習」のすゝめ（児童用）

表 1 総合的な学習の時間の年間計画

学年	3年生	4年生	5年生	6年生
月	福祉	地域	環境	平和
4	タブレットの使い方 (タイピング) 調べ学習 A (学年テーマ)	A 横断的・総合的な探究課題 学年テーマ 「地域」 探究課題 「地域の特色と広げつ なげたいヒトやモノ」 学習事項 「佐賀藩の歴史を伝えよう」 「佐賀城本丸歴史館などの文化 財を知らせよう」 「佐賀を築いた七賢人を伝えよ う」 「佐賀城の周りの生き物を調べ よう」など ※情報活用能力の指導と並行	B 学級担任の教科の特色 を生かした探究課題 (例) 算数科、特別活動、家庭科 テーマ 「国際理解」 探究課題 「地域に暮らす外国人 とその人たちが大切に している文化や価値観」 学習事項 「佐賀の伝統や文化とそのよさ」 「世界の国々の伝統や文化とそのよ さ」 「異なる文化と交流する活動や取 組」など ※情報活用能力の指導と並行	C 【鯨っ子学習】 児童の興味・関心に 基づく探究課題
5	調べ学習 A			
6	調べ学習 A 調べ学習 B (学級担任の教科の特 色を生かしたテーマ)			
7	調べ学習 B			C 【鯨っ子学習】 児童の興味・関心に 基づく探究課題
8	夏休み			
9	調べ学習 B プログラミング学習	C 【鯨っ子学習】 児童の興味・関心に 基づく探究課題	※学習成果を4年生へ伝える 北山自然体験学習「森林学 習館」で自然について学ぶ 中で課題意識をもつ	A 横断的・総合的な探究課題 学年テーマ 「平和」 探究課題 ・「先人に学ぶ」② (空・交通の平和) GT: ANAパイロット ・「先人に学ぶ」③(スポーツ) GT:佐賀/ブルーナース ・「先人に学ぶ」④ (宇宙の平和) GT:天文学者
10	プログラミング学習 特別支援学校との 交流学习			
11	特別支援学校との 交流学习	※学習成果を3年生へ伝える		
12	C 【鯨っ子学習】 児童の興味・関心に 基づく探究課題	B 学級担任の教科の特色 を生かした探究課題 (例) 理科科、社会科、外国語活動 テーマ 「いろいろな視点から 地域を見よう」 学習事項 「地域の自然とわたしたち」 「佐賀と世界の国々のつながり」 「地域の防災」 「SDG s で佐賀や世界を見てみ よう」など	A 横断的・総合的な探究課題 学年テーマ 「環境」 探究課題 「身近な自然環境とそこに 起きている環境問題」 学習事項 「身近な自然の存在とそのよさ」 「環境問題と自分たちの生活の関 わり」 「環境の保全やよりよい環境の創 造のための取組」など	B 学級担任の教科の特色 を生かした探究課題 (例) 算数科、体育科、音楽科 テーマ 「キャリア」 探究課題 「実社会で働く人々の姿 と自己の将来」 学習事項 「働く人々の思い」 「〇〇になるためには」など ※中学1年生の発表
1				
2				
3				卒業に向けて

(各学年：総合的な学習の時間 70 時間)

3 サイクル A：横断的・総合的な探究課題、B：学級担任の教科の特色を生かした探究課題、C：鯨っ子学習

表2 総合的な学習の時間で育成を目指す「資質・能力デザイン」

		レベル pre 1		レベル 1		レベル 2	
		小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6
知識 及び 技能	知識	・ 実生活の中で学習したことを生かすことができる。		・ 自ら設定した課題を解決するための必要な知識を理解することができる。 ・ 各教科で学習した内容を生かして取り組むことができる。			
	情報収集の技能	・ ICT 機器を使って対象の画像を撮影することができる。		・ 人に聞いたり、図書館や ICT を活用して調べたりして、必要な情報を集めることができる。 ・ 収集した情報をノートやタブレット PC に蓄積することができる。 ・ 多様な方法で自分の目的や意図に即した情報を収集することができる。 ・ 収集した情報の種類に応じてノートやタブレット PC に蓄積することができる。			
思考力、 判断力、 表現力等	課題の設定	・ 疑問点を基に、教師又は友達と共にめあてを立てる。		・ 自分の興味・関心のある事柄に関する課題を設定している。		・ 自分の興味・関心のある事柄から課題を見だし、設定している。	
	リサーチ クエスチョンの 設定	・ 結果や成果を見通す。		・ 自分の興味・関心のある事柄に関する課題に対して仮説を立てることができる。		・ 課題の視点に沿って、本当に自分がやりたい課題を選択することができる ・ 自分の興味・関心のある事柄から見いだした課題に対して仮説を立てることができる。	
	仮説の設定						
	研究手法の選択 (研究計画作成)	・ 教師と共に観察や活動の計画を立てて、学習を見通す。		・ 解決に必要な調査方法を考えながら、計画を立てることができる。 ・ いろいろな調査・実験方法を考える。 ・ アンケートやインタビュー、実地見学の計画を立てる。		・ 解決に必要な調査方法や手順を考え、計画を立てることができる。 ・ 仮説を検証するための調査・実験方法を見通す。 ・ どのような図書やインターネットの情報が必要なのか計画を立てる。	
	調査・実験	・ 諸感覚を働かせて身近な人々、社会や自然に直接働きかけている。		・ いろいろな調査・実験方法を試す。 ・ テーマやキーワードに沿った図書やインターネットを選ぶことができる。		・ いろいろな調査・実験方法の中から、仮説の検証に合った方法を多面的に試す。 ・ テーマやキーワードに沿った書籍やインターネットを選び、適切な情報を得ることができる。	
	整理・分析	・ 教師や友達と共に活動や体験を通して、対象と何度も関わり、様々な情報を取り出すことができる。		・ 集めた情報に対して思考ツール(ベン図、クラゲチャート、ピラミッドチャート、コンセプトマップ等)や他教科で学習した方法を用いて整理することができる。 ・ 整理したことをもとに、情報にある特徴を見つけることができる。 ・ 自分の課題に対して、自分なりの結論を出すことができる。		・ 集めた情報に対して思考ツール等を適切に活用して整理することができる。 ・ 収集した情報を比較したり分類したり関連付けたりすることで、相互の関係を見いだすことができる。 ・ 自分の課題に対して、収集した情報から根拠をもち、論理的に結論を出すことができる。	
	まとめ・発表	・ 自分自身や自分の生活について考え、表現することができる。 ・ 言葉、絵、動作化、劇化などを用いて表現することができる。		・ 相手や目的を意識して、分かりやすい方法(レポート、新聞、プレゼンテーションソフト等)を選択し、まとめることができる。 ・ 足りない情報について再度調査・実験をし直すことができる。 ・ 他教科で培った表現力(文、図、グラフ、絵、声の大きさ、動作等)を生かすことができる。 ・ 課題設定での仮説と結論を比べることができる。		・ 相手や目的に応じて、分かりやすい方法を選択し、構成の仕方を考え、まとめることができる。 ・ 足りない情報について再度調査・実験をし直すことができる。 ・ 他教科で培った表現力等を適切に活用することができる。 ・ 課題設定での仮説と結論を比較し、文章で考察することができる。	
	振り返り	・ 学んだことを生活に生かそうとしている。		・ 学習の仕方を振り返り、他の学習や生活に生かそうとしている。		・ 学習の仕方を振り返り、他の学習や生活に生かしたり、新たな課題を見つけたることができる。	
学び に向かう力、 人間性等	探究的な 学習から得た 成果・気づき	・ 自分自身、身近な人々、社会や自然の特徴やよさ、関わりに気付いている。		・ 自ら設定した課題について探究的に学んだことにより、新しい知識を得たり、新しくできるようになったりした自分の変容に気付いている。 ・ 探究活動を通して、自分の生活を見直し、自分のよさを理解しようとしている。 ・ 探究活動を通して、自分や友達の意見や考えそれぞれによさがあることを知り、学び合おうとする。			
	将来展望 ・ 社会参画	・ 身近な人々、社会や自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学ぼうとしている。		・ 目標をもって課題の解決に向けた探究に取り組んでいる。 ・ 探究活動を通して、自分のこれからの生活について考え、夢や希望をもとうとしている。 ・ 探究活動を通して、生活の中で自分にできることを見付け、行動しようとする。			

※レベル 3，4 は中学部が使用する。9 年計画で制作している。

4 探究的な学びにAARサイクルを取り入れた今年度の取り組み

(1) AARサイクルとは

OECD Education2030 プロジェクトにおける生徒に求めるコンピテンシーを育てていくために必要なプロセス。Anticipation（見通し）→Action（行動）→Reflection（振り返り）の頭文字をとっており、このサイクルを通して、変革をもたらすコンピテンシーを獲得したり、エージェンシーを発揮したりすることで、ウェルビーイングの実現を目指すものである（図3）。変革をもたらすコンピテンシーとは、「新たな価値を創造する力」、「対立やジレンマに対処する力」、「責任ある行動をとる力」の3つで、2030年の時代において重要なものであり、キー・コンピテンシーを更新したものとして位置付けられている。エージェンシーとは、「変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力」（OECD、2019）であり、「結果を予測すること（目標を設定すること）」、「自らの目標達成に向けて計画すること」、「自分が使える能力や機会を評価・振り返ること、自分をモニタリングすること」、「逆境を克服すること」等、多様な能力の集合である。社会がよりよくなるように考え、行動していくという責任があることを含意しており、他者や社会の中で育まれていく。2つの側面があると言える。

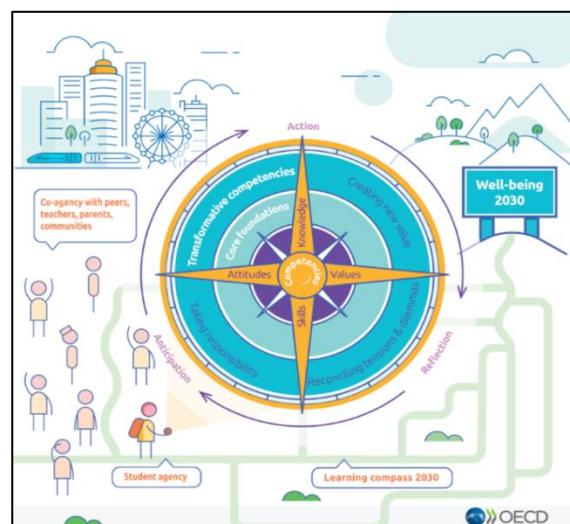


図3 Education2030 ラーニング・コンパス（OECD、2019）



資料1 OECD Education2030
日本語訳動画

(2) 探究的な学びにAARサイクルを取り入れる意義

探究的な学びにAARサイクルを取り入れる意義を以下の2点と考える。

- ・汎用的な資質・能力の育成を促進させるため

総合的な学習の時間では、探究的な学びを通して、学習の基盤となる資質・能力（汎用的な資質・能力）が育成され、また、それらの能力が探究的な学びを支えている。一方、AARサイクルを通して、児童はエージェンシーを発揮したり成長させたりし、変革をもたらすコンピテンシーを獲得するとされている。エージェンシー、変革をもたらすコンピテンシーは、先述べたように、多様な能力の集合であり、これらの構成要素の一部は、先に述べた学習の基盤となる資質・能力と重なる。そのため、探究的な学びにAARサイクルを取り入れることで、汎用的な資質・能力が促進されると言えるだろう。

- ・「問い続ける姿」をより表出させることができるため

総合的な学習の時間において、重要であることは、探究的な学びが生まれること以上に、それが続いていくこと、つまり、探究的な学習のサイクルが連続することである。そのためには、児童が課題に主体的に関わること、児童の問い続ける姿が必要となる。AARサイクルでは、その過程に沿って学習を児童が行うことだけでなく、児童自身がそのサイクルを回すことを大切にしている。児童がAARサイクルを自ら回していけば、「必然的に、検討しようとしている課題やテーマを自分ごととして捉え、当事者意識をもつことができる」（白井、2020：174）ため、先に述べた探究的な学びに必要な姿を表出させることができると考える。

5 鯨っ子学習 授業経過

(1) 課題設定（1時目～3時目）

総合的な学習の時間では、自ら課題を見つけ、それについて調べ、考え、まとめる探究的な学習が行われる。その出発点となるのが「課題設定」である。自分が本当に興味を持てるテーマを見つけることで、学びへの意欲が高まり、主体的に取り組むことができる。また、課題を明確にすることで、情報収集や調査の方向性が定まり、より深い学びにつながる。従って、課題設定は総合的な学習の土台となる重要なステップなのである。

しかし、「何を課題とするか」を決めることは、とても難しいことで、自分の興味・関心に基づいてテーマを決めるだけでなく、「なぜその課題に取り組むのか」「どのように調べ、考え、まとめていくのか」といった目的や方法も見通しておく必要がある。さらに、課題が抽象的で広すぎると何を調べればいいのかわからなくなり、逆に具体的で狭すぎると調べられる情報が少なくなってしまう。ちょうどよいテーマを見つけることが、総合的な学習の第一歩であるが、そこが一番難しいところでもある。

附属小学校では、まず最初の課題設定の際に、自分の興味があるものから課題を考え、2週間かけて小さなノート（課題ストックノート）に箇条書きにして蓄積していく時間を設けている。ノートに課題を書く際には、探究活動がすぐに終わらないように、1つの課題につき3つ、実験や調査、観察するものがあるかを書くように指示している（図4）。

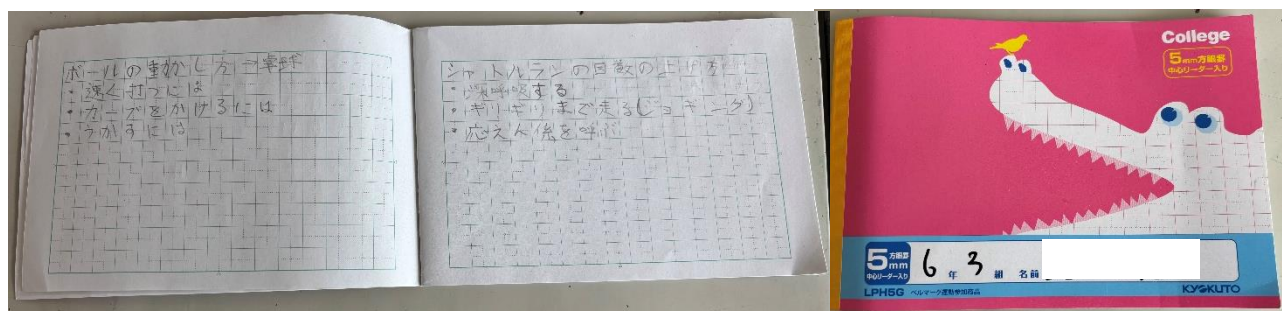


図4 課題ストックノート

また、課題を書く際には、自分にとって意味があり、それを5年生に伝えることで5年生にとっても意味があるものにするということを伝えている。「総合的な学習の時間」における「相手意識」とは、自分の学びや活動が誰に向けられているのかを意識することである。これは、調べ学習・発表・企画・実行などすべての場面において重要な視点であり、自分本位でなく人のためになる学びになることを意識することで、内容が伝わりやすくなり、発表や提案に説得力が出る。

しかし、1週間経過した課題ストックノートを見ると、継続的に探究活動ができないものや実際に学校で行うことができないものも多かった。そこで、附属中学校や他の附属学校で個人探究を行っている学校を参考にし、児童が課題を設定する際に必要な視点を整理して示した。課題設定に必要な視点を右の表に示す（表3）。さらに、多くの課題から急に1つに絞ることはせず、児童自身で考えて6つ、3つ、1つと段階的に課題を絞る時間を設けた。このように課題設定に時間をかけ、児童自身で選択する時間を取ることで、その後の情報収集や調査、発表の方向性がぶれにくくなると考えられる（次頁図5、次頁図6）

表3 課題設定の視点

- ・ 本当に自分がやりたいことか
- ・ それをやることで今後の自分の役に立つか
- ・ それを伝えることで相手がレベルアップできるか
- ・ 実験や作業は学校（家庭）で実現可能か
- ・ 結果の見通しがある程度もてるか
- ・ 分析できるデータがたくさん取れるか

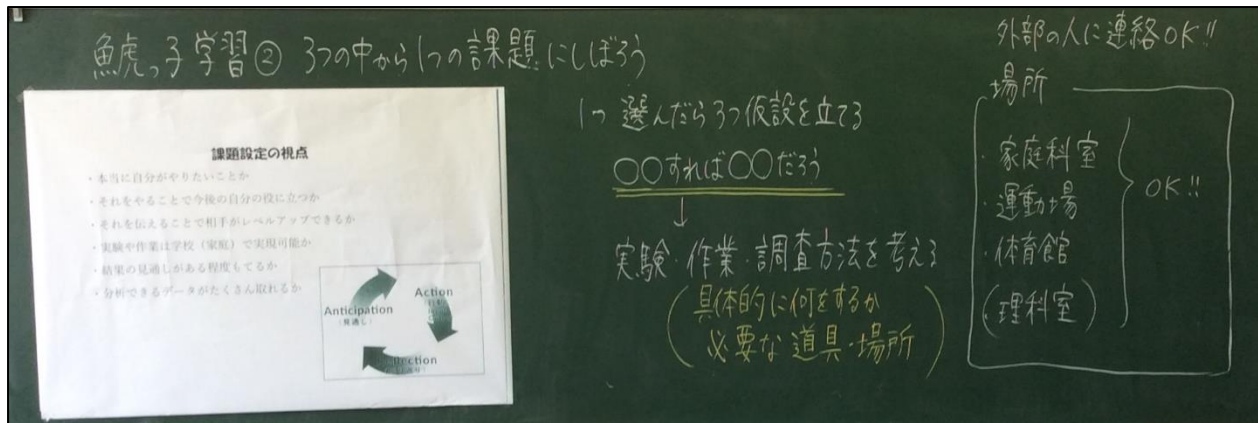


図5 課題を3つから1つに絞る際の板書（3時目）

また、最終的に課題を1つに絞る際に、佐賀大学の探究サークルのメンバーに来て頂き、交流を図る時間を設けた（次項図7）。大学生との交流を取り入れた課題設定については、以下の3つの方向性が考えられる。視野を広げること（大学生との交流を通じて、将来や社会についての関心を高める）、探究を深めること（大学生の研究や学びの姿勢から、課題への取り組み方を学ぶ学びの動機づけを行う）、身近なロールモデルと出会うことで学びへの意欲を引き出すことである。大学生との交流の際には既記の課題設定の視点を通してアドバイスを行うように事前打ち合わせを行った。教師より身近な存在である大学生と交流することで、どの児童も熱心により自分が探究をしたい課題を選択することができていた。

さらに、課題を1つに絞った後は、課題を解決するため

鯨っ子学習 課題ストックの中から6つにしよう
氏名(尾崎 文香)

課題① けしごむについて	課題④ は、は、について
課題② どうしたらうまく絵がかけろの?	課題③ どうしたらおいしくおかしが作れる?
課題⑤ わたしについて	課題⑥ 馬について (笑いが、目) どうはう...

さらに3つにしよう
その課題を解決するためにどんなことができるか3つ書いてみよう

課題① けしごむについて (原料、作り方、インタビュー、プレゼン) ・原料をネット ・つくり方インタビュー(動画) ・どうしたらよくなる?	課題② おかしが作れる? (おかし) ・おかしが作れる? (おかし) ・おかしが作れる? (おかし) ・おかしが作れる? (おかし)	課題③ どうしたらおいしくおかしが作れる? ・つくって楽しむ、プレゼンテーション ・おかしが作れる? (おかし) ・おかしが作れる? (おかし)
--	--	--

ゴール
下学年に伝える

鯨っ子学習② 3つの課題の中から1つの課題にしよう
氏名(尾崎 文香)

テーマ どうしたらおいしくパンケーキが作れる? (おかし)

テーマを設定した理由
パンケーキをおいしく作れたら みんなにふるまふ、よろこぶ、よろこぶ

課題研究の仮説① ○○すれば○○なるだろう 材料をカミ入れは おいしくなる?	課題研究の仮説② ○○すれば○○なるだろう 中に入れれば おいしくなる?	課題研究の仮説③ ○○すれば○○なるだろう きいをカリッと ↑ きいをカリッと きいをカリッと
そのためにはこのような実験、観察、調査をすべき ・材料をつくる、おかしが作れる ・おかしが作れる、おかしが作れる	そのためにはこのような実験、観察、調査をすべき ・おかしが作れる、おかしが作れる ・おかしが作れる、おかしが作れる	そのためにはこのような実験、観察、調査をすべき ・おかしが作れる、おかしが作れる ・おかしが作れる、おかしが作れる

図6 課題を6つ→3つ→1つに絞るワークシート

に3つの仮説を立てた（もし○○すれば○○なるだろう）。これは、理科の学習の仮説検証実験の際に行っている。仮説を立てることで、やみくもに調べるのではなく、仮説をもとに「本当にそうなのか？」ということを確認するための情報を集められるようになる。たとえ仮説が間違っていたとしても、そこから新たな気づきや問いが生まれることも、探究の醍醐味であると考えている。



図7 大学生との交流（3時目）

そのようにしておのおのの児童が選択した課題を以下の表に示す。

表4 児童が選択した課題

どうやったら字はきれいになる	料理がおいしくなるには
ホッカイロについて	水について研究しよう
インスタントラーメンのおいしさと工夫	手を洗う石けんについて
サッカーを上達するには	自分をグレードアップ
卵料理を上達させるには	野球が上達するためには
水の温度と性質について	ボールのけり方
ミニチュアの世界から無限にエネルギーを作れるのか	バトミントンのスマッシュが上手になるには どのようなことをすれば良いか
寝方によって効果などはあるのだろうか	サッカーを上手になるためには
どうしたらおいしくパンケーキがつかれるか	バスケの技術をあげるにはどうしたらいいか
たまごやきをおいしくつくる方法	バスケについて
どのようにしたらおいしいプリンができるのか	「言葉」や「音楽」をいろいろな物にかけつづけたら どうなるか
アサイボールをおいしく作るには	食べ物のことについて調べよう
紙1枚で何ができるのか	どうやったら野球がうまくなるか
犬の赤ちゃんのひみつ	テニスがうまくなるには何をすればいいか
バトミントンの打ち方について	料理をおいしくするコツをさがそう
メントスコーラについて	どうしたら美味しいパンケーキがつかれる
上手なアイスの作り方	

課題を1つに絞った後、継続的に探究することができるのか自信がない児童には、具体的にどのようなことをすればいいのか、一緒に考えている。自由に課題を設定できる楽しさがある反面、課題設定に時間をかけたとしても不安がある児童も数名いた。その児童には個別に支援する必要があると考える。

(2) 情報収集（４～６時目）

個人探究では、自分で設定した課題を解決したり、新たな疑問を生み出したりするために、情報を集めることが重要である。情報収集の方法は、アンケート調査、インタビュー（対面／オンライン）、電話、図書室や図書館での調査、インターネット検索、講演会・セミナー参加、フィールドワーク（現地調査）、実験・調査等様々で、アナログ・デジタル両面の手段を計画的に組み合わせることが大切であることを伝えている。実際に授業では、アンケート調査、実験・調査、インターネット検索をしている児童の姿が多く見られた（図８）。一つの調査方法にこだわることも重要であるが、できるだけ課題を多面的に捉え、様々な調査方法を試みることも大切であることを伝えている。



図８ 情報収集をしている児童の様相（４時目）

情報収集の際に悩んでいる児童には、同じような課題をもつ児童と話し合いを行ったり、家族やその分野の専門の教師に聞いたりして、自分の課題に合った情報収集を行うようにしている（図９）。このように、他者との対話・協働を活用するインタビューや話し合いを通じて視点を広げることも有効であると考え。また、情報収集だけでは終わらず、更なる疑問を見つけることも探究の本質である。単に答えを得るだけでなく、「なぜ」「どうして」と深掘りすることが探究的な学びとなると考える。本時では、これまで集めた情報から、今後の発表に向かってどのように整理分析してまとめていくか考察していく時間とする。本時を生かして、足りない部分やさらに追及したい部分を今後も探究したいと意気込む児童の姿を期待する。

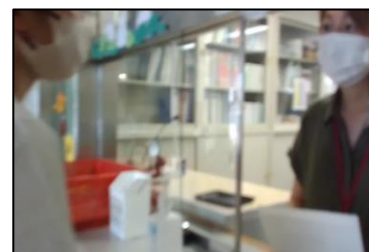


図９ 栄養士にインタビューする児童の様相（５時目）

(3) 本単元におけるAARサイクルの位置付け

単元の初めに鯨っ子学習の流れ（探究サイクル）を説明した上で、AARサイクルについても説明している。ワークシートにもAARサイクルを記載し、児童に意識をもたせるようにした。AARサイクルを探究活動に取り入れる意義は既に述べているが、探究活動を深めていくためには、ただ調べたりまとめたりするだけでなく、「どうなるのか」「どうやって進めるのか」「やってみてどうだったか」を考えることが重要であり、そのために役立つのが、

Anticipation（見通し）-Action（行動）-Reflection（振

り返し）の流れと考える。特に本単元では、振り返りの際に次の活動の見通しをもつ児童が多く見られた。振り返りがあることで、次の活動に新たな気付きをつなげることができ、探究がより確かなものとなる。AARサイクルを意識することで、自分の学びを自分でつくる力が育ち、より主体的で深い探究につながっていくと考える。

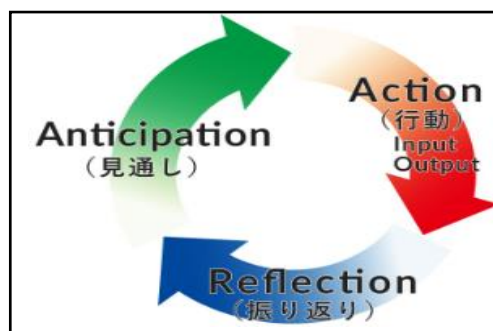


図 10 AARサイクル

6 参考引用文献

- ・岡本尚也 2017 『課題探究メソッド』新興出版社啓林館
- ・文部科学省 2018 『小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編』東京書籍
- ・OECD 2019 『OECD Learning Compass Concept Notes』
https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/projects/edu/education-2040/concept-notes/OECD_Learning_Compass_2030_concept_note.pdf 2025.05.18. 参照
- ・白井俊 2020 『OECD Education2030 プロジェクトが描く教育の未来—エージェンシー、資質・能力とカリキュラム—』 ミネルヴァ書房

総合的な学習の時間のアンケートにご協力ください。
よろしくお願い致します。
アンケートは下の QR コードから↓